独立行政法人福祉医療機構
令和6年度（補正予算）社会福祉振興助成事業

制度の狭間にいる
引きこもりの人に対する
孤立防止事業

特定非営利活動法人　あじさい園

安心できる居場所づくりを目指して

特定非営利活動法人あじさい園とは・・

2011年4月に精神疾患当事者の家族による交流会として活動を開始しました。当時は、精神疾患のある人が地域で生活するための制度がようやく整い始めた時期であり、働く場所や安心して過ごせる居場所は限られていました。そのため、家族は大きな不安を抱えながら日々を過ごしていました。

こうした状況の中で、同じ思いを抱える家族が集まり、互いに支え合う交流活動を行うとともに、精神疾患に対する理解を広げるための啓発活動にも取り組んできました。

その後、引きこもりがちな息子や娘たちが安心して過ごせる居場所を地域の中に作りたいという願いから、2019年8月に法人化し、特定非営利活動法人あじさい園として相談事業、生きがいづくり事業、就労支援事業などの活動を開始しました。

地域活動支援センターのびのびとは・・

設立当初の特定非営利活動法人あじさい園は、古賀市内の公共施設等を利用した移動型の活動として実施していましたが、利用者が継続して安心して通える固定的な拠点の必要性を強く感じていました。そこで2023年8月、障害者総合支援法に基づく地域生活支援事業（地域活動支援センター）により、現在の古賀市天神６丁目に「地域活動支援センターのびのび」を開設し、本格的な活動を開始しました。

地域活動支援センターのびのびでは、障がいのある方が、住み慣れた地域で、その人らしい自立した日常生活や社会生活を送れるように、創作活動や生産活動の機会を提供したり、同じような悩みを持つ仲間や地域住民との交流の場を設けたりすることで、障がいのある方の「居場所」を提供しています。引きこもりがちな人たちが安心して外出し、社会とつながるための、最初のステップとなる場所です。

現在は、古賀市、福津市、新宮町の3自治体と事業契約を締結しています。

2025年度利用登録者数　９人　（2026. 2. 28現在）

利用時間；月～金曜日 9：30～15：30

（基本的に土日祝日はお休みです）

引きこもりとは

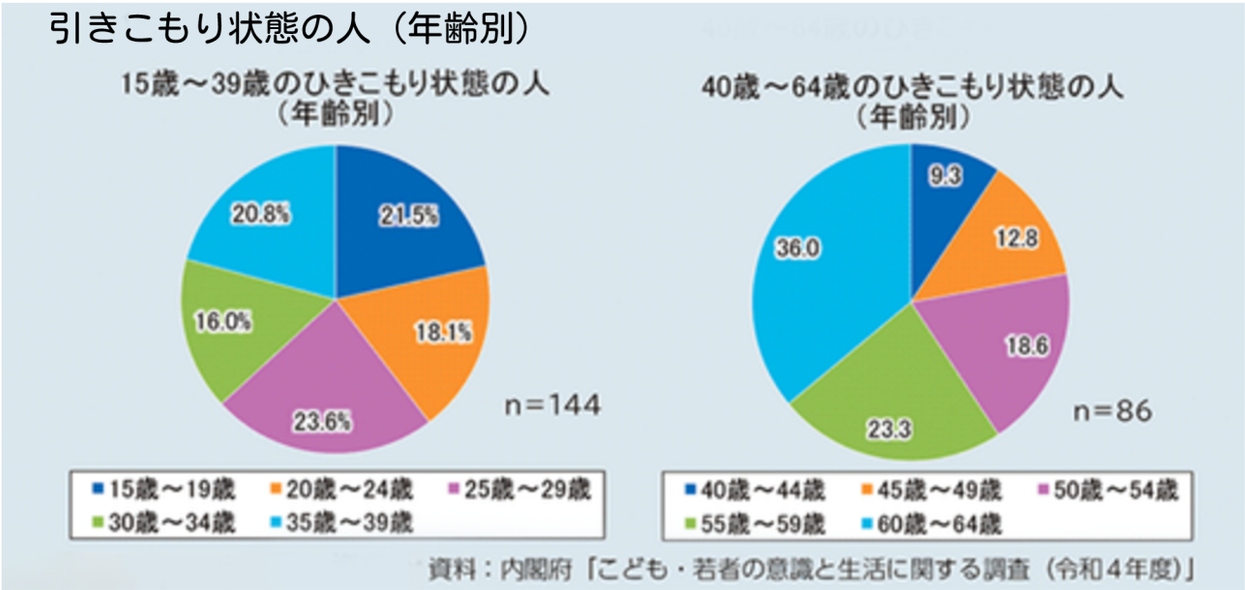
引きこもりとは

さまざまな要因の結果として、就学や就労、交遊などの社会的参加を避けて、原則的には６ヶ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態のことを言います。（他者と交わらない形での外出をしている場合も含む。）

（「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」より）

引きこもり状態にある人は、15～39歳で2.05%、40～64歳で2.02%となっており、全国の数字にあてはめて約146万人と推計されています。（2022年度「こども・若者の意識と生活に関する調査」より）

また、小学校中学校における不登校児童生徒数は353,970人となり過去最多となりました。その増加率は小学校5.6%、中学校0.1%、小学校中学校全体で2.2%です。児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数は38.6人でした。（2024年度文部科学省調査より）



引きこもり支援において目指すべき姿は

一人ひとりの背景や心情を捉えずに社会参加や就労を求めることではなく、本人のペースに合わせながら、本人やその家族が、自らの意思により、自身が目指す生き方や、社会との関わり方等を決めていくことができるようになること「自律」とした。

自律とは自己を律すること、社会に適応するといった捉え方ではなく、本人の尊厳や主体性、自尊感情を回復する意味であり、その自律に向けたプロセスを本人と支援者が共有しながら一歩ずつ進むことを目指すもの。自律の形は一人ひとり違うものであり、決まったものはない。（厚労省「ひきこもり支援ハンドブック～寄り添うための羅針盤～」より）

令和6年度(補正予算)社会福祉振興助成事業
「制度の狭間(はざま)にいる引きこもりの人の利用促進事業」

あじさい園を無料で利用するためには、自治体で発行される地域活動支援センターの利用受給者証が必要です。それには、障害者手帳または自立支援医療証の所持が求められます。そのため、精神的な不調やひきこもり状態にありながらも、まだ医療や福祉制度につながっていない人や制度利用に至っていない人、いわゆる制度の狭間にいる人たちにとっては利用料が発生することとなり、経済的な負担や利用への心理的な抵抗が生じるなど、大きな課題がありました。

今回のWAM助成事業により、こうした制度の狭間にいる人たちも、地域活動支援センター事業の利用者と同じ条件で活動に参加できるようになりました。さらに作業活動においては工賃を受け取ることも可能となりました。

このように、自分のペースで安心して過ごすことのできる居場所を提供したことで、参加者それぞれに外出機会の増加や他者との交流の広がりが見られ、主体的に活動へ参加しようとする姿勢など、自律に向けた変化が見られるようになりました。

また、来所による利用だけでなく、電話やSNSを通じた相談支援も継続して行い、孤立の防止につながったと考えています。さらに、当事者本人だけでなく家族からの相談にも対応し、安心して生活を続けるための支援を行いました。

柱立1　「条件により支援が受けづらい引きこもりの人の格差是正」

・作業体験(センター利用者と同様に若干額の工賃あり)
・コミュニケーション訓練。
　ツール（トランプ， オセロ， 将棋，UNO, ゲーム等）を利用して、会話をしながら他人との時間空間の共有に慣れる
・ボランティア活動などに参加
・個人相談、家族相談(面談による場合、電話・メール・ラインによる場合)
・昼食弁当無償提供

柱立2　「外出を促すためのイベント開催」

令和７年5月蒸しパン作り、9月陶芸体験、令和８年1月ストラップ作りと、3つのワークショップをあじさい園のびのびで開催しました。

少人数の参加者ではありますが開催告知をすることであじさい園の存在や、活動紹介をすることができました。家族のみの参加や、市民ボランティアさんの参加もあり和やかな雰囲気の中、楽しい交流ができました。（後述の写真レポートをご参照ください）

ワークショップ参加人数

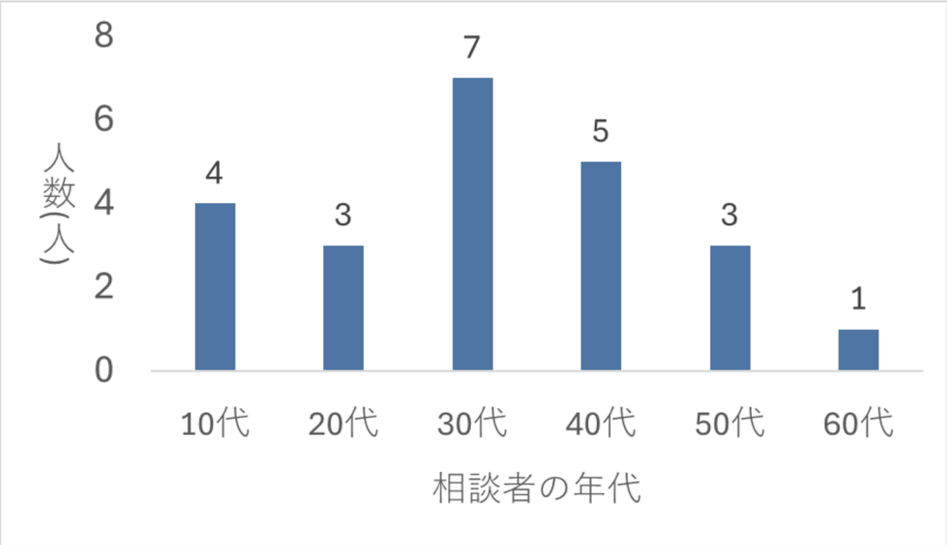
（単位：人）

		WAM利用者	地活利用者	家族	ボランティア
1	蒸しパン作り	1	2	1	2
2	陶芸体験	1	2	1	2
3	ストラップ作り	1	4	2	2

相談実績について

相談実数　2025年4月～2026年2月　23人（男性13人　女性10人）

年代別相談者数

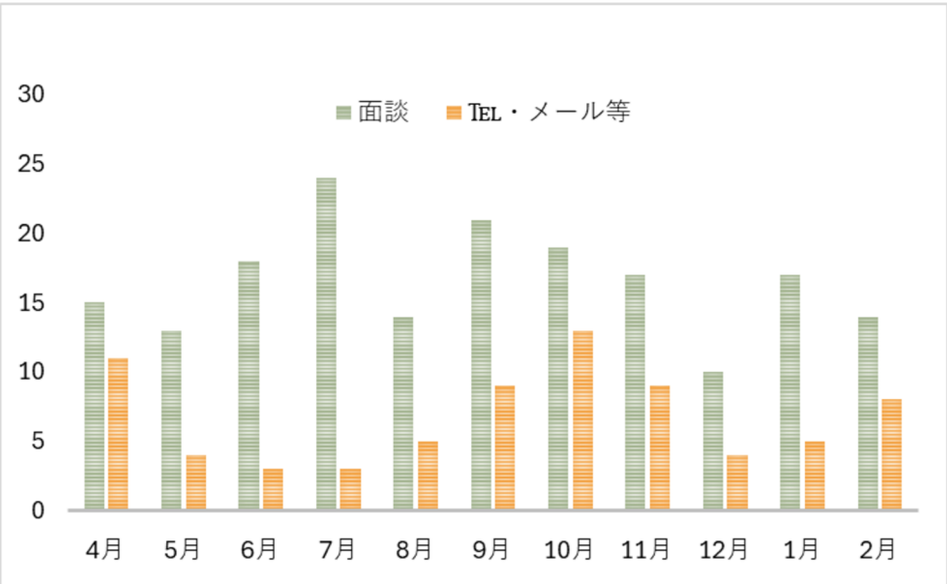


相談形式別相談者数

本人面談 (内活動参加者)	11人 (4人)
本人電話等	2人
家族相談	8人
関係者より情報	2人

相談総数　2025年4月～2026年2月

面談・・・・・・・・・・・・182 件
電話、メール、ライン・・ 74 件



あじさい園　のびのび

活動紹介

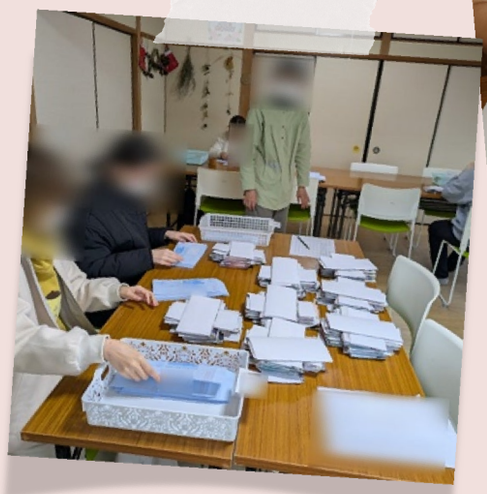
チラシ折り込み ポスティング

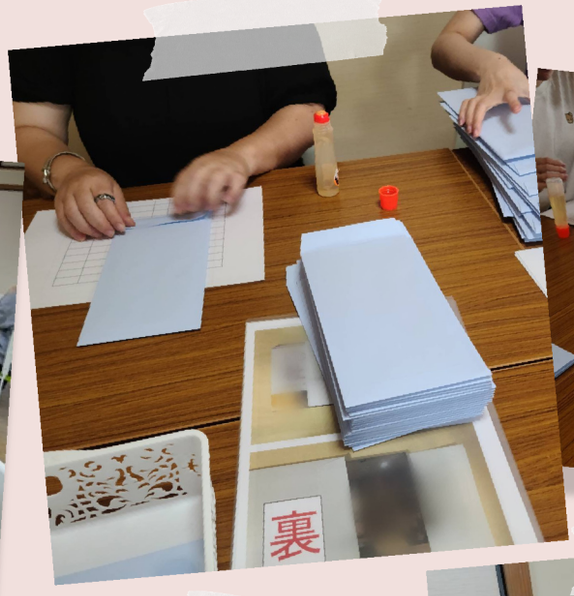
毎週水曜日には、地域のフリーペーパーにチラシを折り込む作業を行っており、利用者が協力しながら一枚一枚丁寧に作業を進めています。集中力や作業習慣を身につける機会ともなっています。
また、毎週木曜日と金曜日には、地区ごとに担当を決め、各戸にポスティング（配布）しています。

ポスティングの途中に公園でひとやすみすることも。

社協だより封入

6・9・12・3月に古賀市社会福祉協議会発行の「社協だより」の発送準備作業をしています。





内職作業

主に月曜日と火曜日には、箱折り作業などの内職を実施しています。

それぞれのペースでむりなく進めます。

チラシ折り込みやポスティング、社協だよりの封入作業、内職作業などの活動は、利用者それぞれの努力や作業量に応じた工賃を得ることができます。これらの作業は、働く意欲や達成感につながるとともに、自分の役割を持つことによって日常生活のリズムづくりにも役立っています。

ゲーム・自由活動

みんなでトランプやオセロ、将棋、
ボードゲームやカードゲーム、
テレビゲームなどをして楽しみます。

読書や書き物など、
一人で静かに過ごしてもOKです。

押し入れの中には
数えきれないくらいの
ゲームやおもちゃがあります。

職員やボランティアさんと一緒に工作や手芸をすることも。

無理に参加を促すことはせず、利用者さんの気持ちを優先
しています。ひとりで休みたい気分のときは2階の休憩
スペースで過ごすこともできます。

野球観戦

企業のご協力により、みずほPayPayドーム
のホークスメセナシートに招待して
いただきました。参加者はおそろいの
ユニフォームを着用し、楽しい時間を
すごしました。このような
外出活動は、利用
者同士の交流を深
めるとともに、
社会参加の機会とも
なりました。

仕分けボランティア

月に一度、「こどもの居場所 たまりんば」で配布する食品の仕分け作業を行っています。地域活動に参加することで、社会とのつながりを感じる機会となっています。

＼玄米を白米にする精米作業も／

配布箇所数に応じて食品を分けたり、お米を小分けにしたりしています。

「たまりんば」で使うウエスも
あじさい園の利用者さんが
作っています。

屋外活動

公園で清掃ボランティアをしています。
海岸へお散歩に行くこともあります。

他団体さんと合同で
「グリーンパーク古賀」
公園内の清掃ボランティアを
行いました。

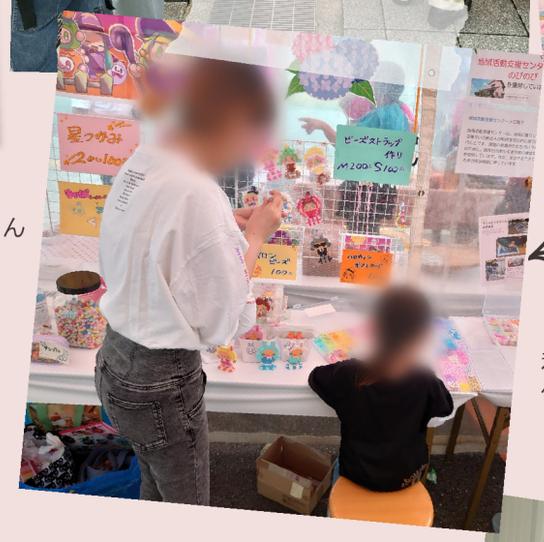
毎月1回「のびのび」のそばにある汐入
公園の清掃をしています。

玄界灘に面した古賀海岸を散歩
しながらごみ拾いをすることも
あります。

健康福祉まつり

「古賀市保健福祉総合センター　サンコスモ古賀」で
開催される、古賀市健康福祉まつりに出店
しました。利用者さんの作品を
展示・販売し、多くのお客様に
足を運んでいただきました。

商品の製作から陳列、販売まで利用者さん
が関わりました。
この日のために一生懸命準備しました。



ビーズストラップ作りコーナー

利用者さん自ら子どもたちに
作り方を教えました。

料理交流

男性料理教室「メンズレシピ」のみなさんと
料理交流を行いました。

・キノコのレモンクリームパスタ
・トッピング盛り盛りピザ
・白玉みたらし団子

美味しくできました♪

ワークショップ

外出や交流のきっかけづくり、安心して参加できる機会の提供を目的に、引きこもりや不登校の当事者とその家族を対象としたワークショップを年に数回開催しています。

それぞれ好きな味とトッピングで♥

2025. 5. 20
蒸しパン作り

プレーン、チョコレート味、抹茶味の3種類の蒸しパンを作りました。
一人ずつ生地を混ぜたりトッピングをしたり、参加者同士の楽しい会話の中、オリジナルの蒸しパンができました。

2025. 9. 30
陶芸体験

陶芸教室の先生を招いての陶芸体験。
お椀、平皿、マグカップや人形マスコットなどを陶土で思い思いに製作し、後日その作品はリーパスプラザこが（古賀市生涯学習センター）内の窯で焼成してもらいました。

手回しろくろで作りました

すてきな作品ができました

2026. 1. 27

ストラップ作り

日本の伝統工芸である水引飾りとリボンを
組み合わせたストラップを製作しました。
和やかな雰囲気の中、リボンには参加者の名
前や好きな言葉を印字する人も。
それぞれの個性を生かした作品に
仕上がった様子でした。

作り方の説明や補助を
してくれた利用者さんも。

水引を結んで飾りをつくりました

オリジナルパッケージに入れて完成

のびのびは こんなところ

「ただいま」と言いたくなるような
あたたかみのある一軒家です。

各お部屋に利用者さんが作った作品が
飾られています。

1人になりたいときは休憩室で
ゆっくりのんびりと…。

お昼は温かいお弁当とお味噌汁を
ご用意しています。

のびのびのスナップ写真

「引きこもりがちな子どもにどう接したらいい」「何かしたいと思うが一歩が踏み出せない」
「人とかかわるのが苦手かな‥」「受けられる制度やサービスのことを知りたい」など
のびのびではそんな悩みや相談も気軽にできますよ。
『地域活動支援センターのびのび』はこんなところです。ちょっと覗いてみませんか。

2025年度事業催事実績一覧

週間

（午前）
月 … 内職作業/自主作品制作
火 … 内職作業/自主作品制作
水 … フリーペーパータウン紙の折込作業、請負作業
木 … ポスティング
金 … ポスティング

（午後）
職員やボランティアスタッフとともに、交流活動

月間

第2月曜日　「NPO法人子どもパートナーズHUGっこ」
食材仕分けボランティア
第4金曜日　公園清掃ボランティア
第2火曜日　福祉相談（咲）

年間

4月 …「就労継続支援B型事業所ミナヨロコブ」見学会
お花見

5月 … ワークショップ「蒸しパン作り」

6月 … 社協だより封入作業
野球観戦（みずほPAYPAYドーム）

7月 … 野球観戦（みずほPAYPAYドーム）
「古賀市里山の会」と公園ゴミ拾いボランティア

9月 … 社協だより封入作業
ワークショップ「陶芸体験」

10月… 健康福祉まつり

11月… 「男性料理教室　メンズレシピ」と料理交流

12月… 社協だより封入作業
ワークショップ
「古賀市里山の会」と公園ゴミ拾いボランティア
お楽しみ会

1月 … ワークショップ「ストラップ作り」

3月 … 社協だより封入作業

事例紹介 Aさんの場合　Bさんの場合

Aさん　20代　女性

兄弟姉妹で引きこもりのケース

不登校をきっかけに引きこもり状態となりました。同じ状況にある妹は地域活動支援センターの利用が可能ですが、本人は制度の狭間にあるためセンターの利用ができません。しかし、これまで常に二人で過ごしてきた姉妹であり、別々の支援は適切ではないと判断しました。

2023年4月より母親とともに来所し、当初は姉妹で別室にて過ごすことから始めましたが、徐々に他の利用者と一緒に作業やゲームに参加し、交流できるようになりました。その間は有料で利用していた時期もありましたが、他の補助金事業を活用することで妹と同様に無料で利用できるように努めました。

今年度は妹と二人でコミュニティバスを利用して来所できるようになり、作業にも積極的に取り組んでいます。3回目の参加となった「健康福祉まつり」では、初めて準備から販売まで関わることができ、大きな自信につながった様子でした。

ワークショップのストラップ作りでは、参加者に助言や補助を行うなど、積極的に交流する姿も見られました。

また、内職の受注元業者が運営する就労継続支援(B)事業所の見学会に参加したことをきっかけに、現在は就労継続支援(B)事業所の体験利用を重ねています。福祉サービス利用が可能な妹とともに本利用を目指しており、医師意見書が必要となるため受診も始めました。

受注元業者や就労支援事業所と連携しながら、彼女たちのペースに合わせたスモールステップでの自立を見守っています。

Bさん　20代　男性

母のボランティア参加から利用に至ったケース

不登校をきっかけに引きこもり状態となりました。母親が2023年9月からボランティアとして活動に参加しており、その関わりを通して少しずつセンターとのつながりが生まれました。2025年7月には野球観戦イベントに初めて母親とともに参加しました。「いつかは地域活動支援センターのびのびに来られるといいね」と願っていたところ、2025年10月に母親とともに初めて来所することができました。

初めは別室で母親と二人で折込作業を行い、2026年1月から母親と一緒にポスティング作業にも参加しています。まだ他の利用者と関わることには緊張する様子が見られますが、自分のペースで少しずつ前進しています。

一歩踏み出すことに大きな勇気が必要な場合もありますが、家族が先に関わることで不安が和らぎ、初めての場所でも活動に参加できるようになった事例です。

事例紹介 Cさんの場合　Dさんの場合

Cさん　30代　女性

支援再開から新たな可能性に繋がったケース

感覚過敏のため外出が難しく、引きこもりがちな生活が続いていました。2022年頃にはボランティア活動などに参加しましたが、その後支援が中断していました。今年度再び来所があり、他の利用者と関わる中で少しずつ自信を取り戻してきた様子が見られます。

「健康福祉まつり」の準備の際には、自宅で製作している樹脂粘土細工を販売したいと希望し、当日は販売手伝いにも参加することになりました。初めて自分の作品が売れたことが自信につながったようで、郵便局の無人販売の情報を紹介したところ自ら交渉し、作品販売を始めました。現在は毎月の食品仕分けボランティアにも率先して参加しています。

行動力や作業能力は高いものの、視覚や触覚などの感覚過敏により疲れやすく、活動の継続が難しいことから自己評価が低くなっている様子が見られます。安心して過ごせる環境を整えることで、本人が次の目標を見つけられるよう支援を行っています。

ご本人の感想

のびのびの一員として初めて「健康福祉まつり」に参加しました。自分で作った粘土細工を販売したことが小さな自信になり、今はネット販売に向けて自宅でハンドメイド作品を作っています。

Dさん　30代　男性

電話相談で孤立防止しているケース

月に1度の電話相談を継続しているケースです。福岡県ひきこもり地域支援センターからの紹介でつながりました。来所には消極的ですが、自分のスマートフォンのアドレス帳に「あじさい園」と登録し、電話を楽しみに待ってくれている様子がうかがえます。

彼との会話は天候や地域の行事など身近な話題から始まり、次第に関心のある映画やスポーツの話などもよく話してくれるようになりました。災害時の話題になり、その際には安否確認に行くことを伝えると、「ご家族を優先してください」と気遣いの言葉も聞かれました。来所を勧める声掛けに対しても「なかなか行動に移せなくてすみません」と話しつつも、拒否する様子は見られません。

引きこもり支援は、外に出すことだけが目標ではありません。非常時にも孤立させないことが重要だと考えています。本人との信頼関係を維持しながら、適切なタイミングで直接支援につなげられるよう、今後も電話相談を継続していきます。

家族支援

引きこもりがちな人が自分の意思だけで来所することは難しく、多くの場合、まず家族から相談があります。相談に至るまでには家族にとっても勇気が必要ですが、その最初の一歩は必ず自宅にいる本人にも伝わっているように感じられます。実際に、相談後に帰宅した家族の様子を見て、本人の表情や行動が前向きに変化したという報告も数多く寄せられています。

また、家族がボランティアとして活動に参加しているケースもあります。利用者や他の家族と関わることで、「我が家だけ」と感じていた孤独感が和らぎ、「わが子もこのペースでよいのだ」と安心感を持てるようになります。その余裕が本人への接し方の変化につながり、最初は家族とともに来所していた本人が、少しずつ自分の居場所として作業や交流活動に参加できるようになっています。

ご家族の感想

Aさんから

あじさい園の方々は一人ひとりのペースをとても大切にしてくださり、そのままでよいと認めてくれます。ゆっくりではありますが前に進んでいる子どもの様子を見ることができ、本当に感謝しています。

Bさんから

本人の言葉では「普通に参加している」とのことですが、ほどよい刺激を受けながら無理のない自分にリズムにあった自然なペースで参加させていただいている様子です。

のびのび利用者との相互作用

障がい者手帳を所持し、地域活動支援センター事業を利用できる人は9名ですが、その多くが引きこもり傾向にあり、現在の利用は週1～2回程度が中心となっています。外出そのものに大きな負担を感じる人も多く、安定した来所に至るまでには時間を要する場合もありますが、無理のないペースで継続的に利用できるよう支援を行っています。

WAM助成事業の対象者と同じ時間、同じ空間で、同じ仲間と交流することで、自然な関わりが生まれ、相互に良い影響が見られるようになっています。同年代で同じように不登校を経験してきた人たちは、互いの気持ちやこれまでの苦労を理解し合える関係が築かれている様子もうかがえます。

利用が中断していた人が再び来所できるようになり、以前よりも安心した落ち着いた表情で同年代の利用者と交流する姿が見られるようになってきました。また、それぞれが取り組んでいる挑戦や変化に刺激を受けて来所回数や作業参加機会が増えた人もいます。コミュニケーションが苦手だった人も、ゲームなどの交流活動をきっかけに徐々に笑顔や発語が増え、自分から関わろうとする様子が見られるなど、以前よりも積極的に参加する姿が見られるようになっています。

ボランティア・関係団体

ボランティアとの交流

　あじさい園は、古賀市市民活動支援センター「つながりひろば」の登録団体として、市民ボランティアの募集や市民団体との交流活動に取り組みました。直接顔を合わせる機会が少ない障がいのある方や引きこもりがちな方と一般市民ですが、活動を重ねる中で、無理のないかたちでお互いの理解が少しずつ深まっていくことを願っています。
　また、家族相談をきっかけにボランティア参加へとつながるケースもあります。現在は23人の方があじさい園のボランティアとして登録されています。

相談経路

・チラシ、ホームページ

・古賀市子ども家庭センター

・古賀市福祉相談係

・古賀市障害者生活支援センター咲

・障害者相談支援事業所

のびのびでボランティアの方と卓球を楽しむこともあります。

関係者・関係団体

・古賀市社会福祉協議会

・古賀市市民活動支援センター「つながりひろば」

　市民ボランティアの募集、交流に向けた市民団体との活動

・男性料理教室(メンズレシピ)

・古賀市陶芸同好会

・古賀里山を守る会

・福津市社会福祉協議会(基幹相談支援センター)

・特定非営利活動法人子供パートナーズHUGっこ

・株式会社さがら企画

・障害者就労継続B型支援事業所「ミナヨロコブ」

・福岡県ひきこもり地域支援センター

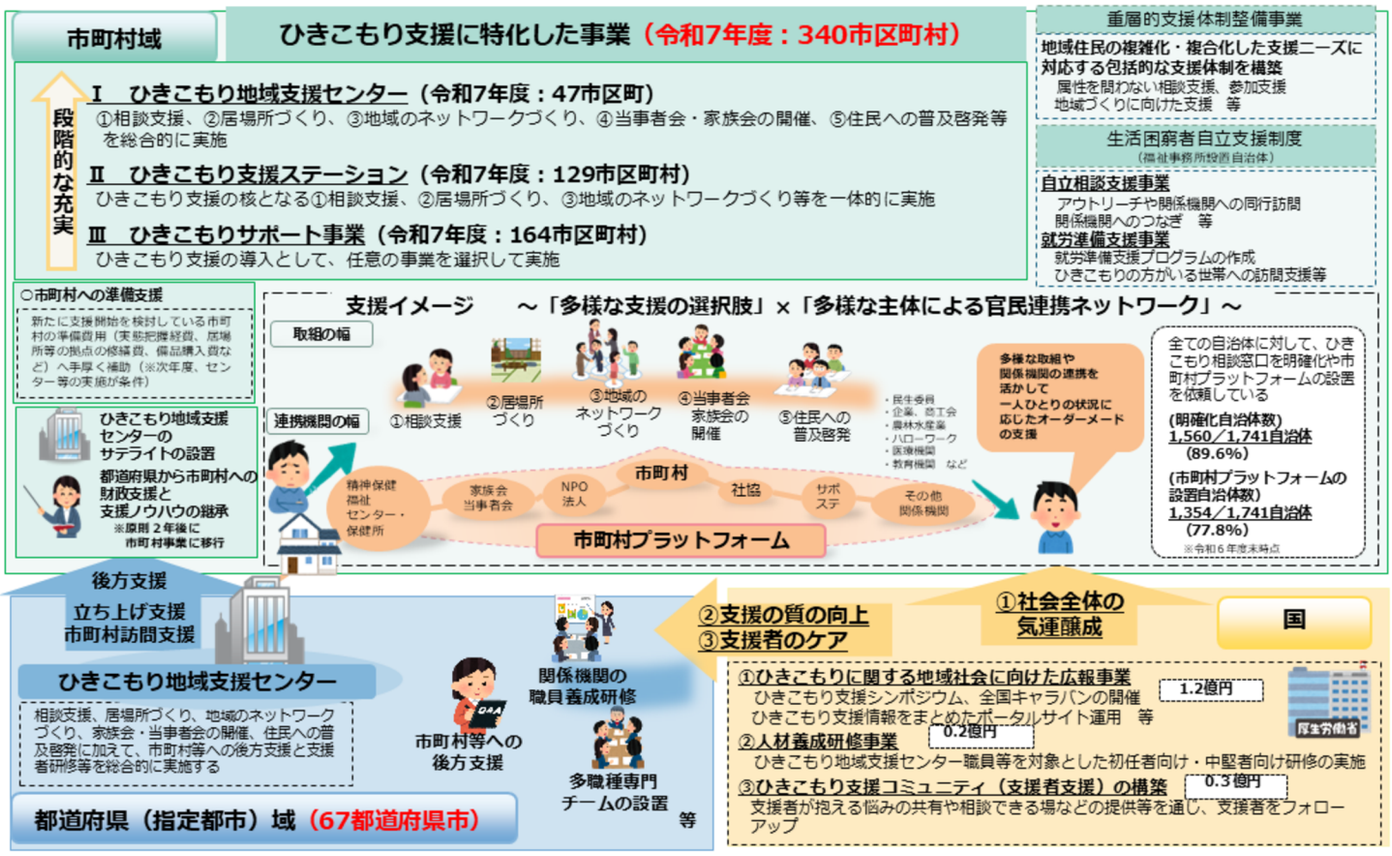
・粕屋保健福祉事務所

ひきこもり支援施策について

引きこもり支援施策の全体像

令和７年度予算額 17.8億円　（令和６年度予算額17.6億円）

より身近な市町村域における相談窓口の設置と支援内容の充実を図り、これを都道府県がバックアップする体制を構築



引きこもり支援の段階

STEP 1	STEP 2	STEP 3	STEP 4
家族へのアプローチ	本人への個別アプローチ	居場所への参加支援	段階的な社会参加支援
家族がひきこもりについての知識を得て、本人に適切な対応をとることで、本人と家族の関係を改善します。 ▶家族の相談 ▶家族会への参加など	家族との葛藤が軽減されると、本人の社会への恐怖感も薄らぎ、家族以外の他者との交流が可能になります。 ▶本人の相談 ▶本人の他者との交流	家族以外で、ひきこもりを経験した人同士が集まる場などへの参加を続けます。 ▶居場所への参加 ▶集団内での交流 ▶就労準備講座など	大きな挫折を避けつつ、本人に合う社会参加を段階的に進めていきます。 ▶就労訓練・就業体験 ▶職業紹介など段階的な就労支援

・ステップに応じて1段1段上がっていく支援（段階を飛ばして先に進むことは難しい）。
・相談支援は結論を急がず、長期間対応が必要となります。
・その回復段階に応じて、関係機関と連携しながら支援します。

制度の挟間を超えて、小さな一歩が未来を創る

引きこもりの現状を見つめて

不登校や引きこもりがちな人たちは増加傾向にあり、長期化に伴い、家族を含めた複雑で困難な支援ケースも少なくありません。

引きこもりの背景は一つではなく、本人も気づいていないような潜在的な要因が重なっていることもあります。原因を特定することが、かえって本人を傷つけてしまう場合もあり、必ずしも原因追及が最優先とは限りません。ただし、医療につながることで本人の苦しさが軽減される可能性がある場合には、適切な受診を勧めています。

引きこもりがちな人への支援

「特定非営利活動法人あじさい園」では、障害者総合支援法に基づく地域生活支援事業において、制度利用が可能な引きこもりがちな人を「地域活動支援センター事業」で支援しています。さらに、年齢や障がいの有無などにより制度の狭間にいる方々を、独立行政法人福祉医療機構［WAM］の令和6年度（補正予算）社会福祉振興助成事業により支援することができました。

同じ引きこもり状態でありながら、制度の枠に当てはまらないために自律の機会を得にくかった人たちです。同じ時間、同じ空間で活動を共にすることで、自信を少しずつ取り戻し、それぞれのペースで自律への段階を重ねています。その変化は、地域活動支援センター利用者にとっても良い刺激となり、相乗効果を生み出しています。

本人とその家族への支援

家族がボランティア等の形で関わることも、大きな意味を持っています。親子間だけでは行き詰まりがちな空気が、他の引きこもりがちな人や家族との交流によって和らぎ、親自身の心に変化が生まれます。

親の不安や焦りといったネガティブな感情に、最も影響を受けているのは本人かもしれません。親が安心して通える場所であればこそ、「一緒に行ってみようか」という言葉が自然に生まれます。その安心感が、本人にとっての最初の一歩につながっていきます。

地域交流から生まれる理解

あじさい園は地域との交流も大切にしています。さまざまな活動を通して市民団体や市民ボランティアと関わり、相互理解を深める機会を積み重ねています。

令和7年10月には、福岡県粕屋保健福祉事務所において開催された「令和7年度 福岡県ひきこもり支援者等地域ネットワーク会議」に出席し、地域活動支援センターのびのびの事業報告およびWAM事業の紹介を行いました。地域に支援の実情を伝えることも、重要な役割の一つと考えています。

継続的な支援の必要性

引きこもり支援は短期間で終結することは稀であり、継続的に寄り添い続ける姿勢が何よりも大切です。しかし、地域の自治体には引きこもり支援に特化した事業はまだ十分に整備されていません。

行政への働きかけを続けながら、現在支援につながっている人たちの支援を途切れさせないこと、そして、いまだ支援とつながっていない人たちを発見し支えていくことが求められています。そのためにも、安定的な運営基盤の確立と継続可能な体制づくりが、私たちあじさい園の今後の課題です。

特定非営利活動法人あじさい園

地域活動支援センターのびのび

住　　所　：〒811-3101 福岡県古賀市天神6丁目16-13
（事務所）福岡県古賀市千鳥3-2-3-304

連 絡 先：TEL 092-982-0932
携帯 080-4276-8349

アクセス：JR「古賀」駅より徒歩約9分
西鉄バス「古賀」バス停より徒歩約5分

ホームページ　ブログ　インスタグラム

この冊子は独立行政法人福祉医療機構[WAM]の助成を受けて2026年3月に制作しました